

烈女のえ



のえの舞台

丹生郡持明寺村百姓権兵衛の姉・のえは、今立郡の本山毫摂寺へ乳持奉公に出ました。

毫摂寺の周囲の村むらは味真野と称され、『万葉集』のいくつかの相聞歌の歌枕となり、謡曲『花筐』の舞台としても知られています。



真宗出雲路派本山 毫摂寺

毫摂寺は、越前の「四箇^{しか}本山」のひとつで、江戸時代の寺域や門前のようすは『二十四輩順拝図会』（1803年）にも描かれています。

毫摂寺境内には、御影堂や阿弥陀堂などの諸堂のほか、のえの墓やのえ頭彰碑などがあります。



のえ銅像

1934年（昭和9）につくられた、のえ銅像です（1989年復元）。傍らの碑文の篆額「忠烈」は、旧福井藩主家の侯爵松平康昌によるものです。



「味真野の乳母」

1933年（昭和8）、だるま屋少女歌劇3月公演で上演されました。

当館蔵 高田富文書 A0502-00130